

## ①函館朝市



戦後に函館周辺の農家が野菜や果物を立ち売ったことから始まった。今では約280件の店舗が軒を連ねており、海産物をはじめ野菜、果物、お菓子、珍味など函館の味覚が集まっている。

昭和15年7月28日付  
函館新聞より

## ②棒二森屋



明治2年創業の洋品店「金森森屋」と明治22年創業の呉服店「棒二萩野商店」が昭和11年に合併して、翌年棒二森屋百貨店を開店した。建物は、箱館の発展に尽力したで真宗本廟寺派の僧・堀川乗経の孫である早大教授明石信道氏の設計によるもので、その後度々増改築し現在に至っている。



大門前  
漫畫商店案内

木村印判店

店判印木

大正6年創業

弁慶力餅三晃堂

5 堂晃三兼

明治40年創業

赤玉薬局

7 赤玉

昭和10年頃「赤玉搗球」という  
ビリヤード場としてスタート

3

4

6

8

9

10

3上参省堂薬局

局薬堂省參

大正6年創業

赤帽子屋

11 本屋赤帽

明治19年創業

久保田写真館

12 鏡寫田保次圓

大正6年創業

提供:函館市中央図書館

## 9菊水小路



松風町電停北側の小路の角に菊水と称する寿司屋があったので、昭和時代からこの小路が「菊水小路」と呼ばれている。昭和15年の函館新聞に掲載された商店街地図「漫畫商店街案内」には「寿しの菊水」が記載されている。

## 10大門広小路



昭和27年6月13日付けの函館新聞に「大門広小路に決まる」という見出しとともに『自由市場通り商興会で改称の町名を一般から募集していたが、12日午前11時大門三河屋で函新、道新、商興会立会の上、応募数2704枚中厳選の結果次の当選者が決まった。』という記事が掲載された。大正時代には萬歳館通りともいわれた。

## 11京極通り



京都の盛り場京極に模して、大門大通に設けた一地区である。劇場京極座があったのでこの通りを「京極通り」といった。劇場京極座は昭和15年に函館新聞に掲載された商店街地図「漫畫商店街案内」に記載されている。

## 12大門横丁



高砂通りと大門仲通りを2つの小路で連結する大門横丁は、個性溢れる26の飲食店が集まる屋台村。平成17年10月オープンから、函館の新鮮な食材を生かした料理とあったかい会話が魅力で、地元に愛され続けている。

# はこだて小路めぐり 大門・朝市編 ~大門界隈今昔物語~

所要時間 60分 距離 1.3km 消費カロリー 180kcal ※消費カロリーはおおよその目安です。



## 漫画商店案内に掲載されているエリア



函館朝市にはお土産店や飲食店など多くの店でぎわっています。

スタート!

電車通り周辺には多くの飲食店や店舗が集まっています。

函館朝市

函館駅前

若松町

棒二森屋

3

木村印判店

4

5

6

7

8

9

10

11

12

大門横丁

京極通り

大門広小路

菊水小路

赤玉薬局

三上参省堂薬局

弁慶力餅三晃堂

- トイレ
- 多目的トイレ
- 駐車場
- バス停



1 「函館駅前商店街一大門通り」昭和29年  
函館駅前より松風町方面を写す 提供:函館市中央図書館



2 「函館東部に於ける繁昌地大門大通り(津軽要塞司令部許可)」年代不明  
松風町より函館駅方面を写す 提供:函館市中央図書館

市役所前

日本銀行  
函館支店

P

廻

廻

廻

廻

東雲町